

ばれいしょ（じゃがいも）

「ばれいしょ」には「ばれいしょ」、「いも類」、「野菜類」に適用がある農薬が使用できる。

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春	作 作		●	—		■				●	—	■	
秋			定植			収穫							
疫そ テ ア ハ ヨ	う ム シ ム シ ム シ ム				—	—	—	—		—	—	—	—
病 病 類 類 ウ シ	か ダ マ シ ム シ ム				—	—	—	—		—	—	—	—

疫病

留意事項

- 1 気温20℃前後の降雨で多発する。
- 2 感染した種いもやほ場に捨てたくずいもで拡がる。
- 3 エムダイファー水和剤はアルカリ性剤（石灰硫黄合剤、ボルドー液など）との混用を避ける。
- 4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤はかられに注意する。
- 5 マンゼブを含む剤の総使用回数は10回。

防除方法

- 1 トマトの発病後のほ場には植えない。
- 2 種いもは、無病のものを選ぶ。
- 3 り病株は早めに除去する。
- 4 窒素過多を避ける。
- 5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ ダコニール1000 M5 【500～1,000倍 7日／5回】
 - ・ ジマンダイセン水和剤 M3 マンゼブ 【400～600倍 7日/10回】
 - ・ ペンコゼブ水和剤 M3 マンゼブ 【400～600倍 7日／10回】
 - ・ エムダイファー水和剤 M3 【400～650倍 14日／7回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ リドミルゴールドMZ M3 4 マンゼブ 【500～1,000倍 30日／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

そうか病

留意事項

- 1 ストレプトマイセス属菌という放線菌（細菌の一種）が病原体で、いもの表面にかさぶた状の病斑ができる。
- 2 pH6.5以上のアルカリ性の土壌で発病しやすい。
- 3 未熟堆肥等の施用を避ける。
- 4 一度汚染されたほ場では、ばれいしょの作付け有無に関係なく、長期間に渡って土壌中に病原菌が残るため、土壌消毒等対応が必要。

防除方法

- 1 輪作を行う。
- 2 無病の種いもを用いる。
- 3 過度のアルカリ質資材（石灰など）の施用を避ける。
- 4 下記の薬剤で、土壌消毒する。（XⅢ 土壌消毒 参照）
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐ 【20～30kg／10a 植付21日前／1回】
- 5 植付け前に下記の薬剤を土壌施用する。
 - ・ [フロンサイド粉剤](#) ☐ 2 9 【30～40kg／10a 全面土壌混和 植付前／1回】
 - ・ [ネビジン粉剤](#) ☐ 3 6
 - 【60kg／10a 全面土壌混和 植付時／1回】 または
 - 【30kg／10a 作条土壌混和 植付時／1回】
- 6 植付け前に下記の薬剤で種いもを処理する。
 - ・ [アグレプト液剤](#) ☐ 2 5
 - 【10倍 種いも100kg当たり200～300mL 種いも散布 植付前／1回】 または
 - 【60～100倍 種いも100kg当たり2.5～3L 種いも散布 植付前／1回】 または
 - 【60～100倍 5～10秒間 種いも浸漬 植付前／1回】

テントウムシダマシ類

留意事項

- 1 草食性のテントウムシであるニジュウヤホシテントウとオオニジュウヤホシテントウをテントウムシダマシ類と通称している。

防除方法

- 1 下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) ☐ 3 A 【2,000～3,000倍 14日／4回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 ☐ 4 A 【2,000～4,000倍 7日／3回】
 - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 ☐ 1 B 【ニジュウヤホシテントウ 1,000～2,000倍 14日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

アブラムシ類

留意事項

- 1 ジャガイモヒゲナガアブラムシ、モモアカアブラムシ、ワタアブラムシなどが寄生する。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オルトラン粒剤](#) 1 B 【3～6kg/10a (1～2g/株) 作条散布 植付時/1回】
 - ・ [アドマイヤー1粒剤](#) 4 A 【4kg/10a 植溝土壌混和 植付時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2,000～3,000倍 14日/4回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2,000～6,000倍 7日/3回】
 - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B 【1,000～2,000倍 14日/2回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【4,000～8,000倍 前日/3回】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生初期の若齢期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 2 8 【2,000～4,000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1,000～2,000倍 7日/2回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【2,500～5,000倍 前日/2回】

ヨトウムシ

防除方法

- 1 発生初期の若齢期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オルトラン水和剤](#) 1 B 【1,000倍 30日/2回】
 - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B 【1,000倍 14日/2回】
 - ・ [BT剤](#) 1 1 A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。